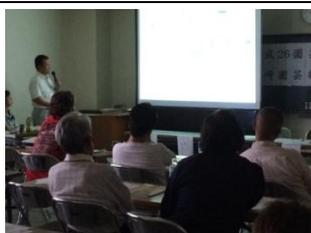


普及活動情勢報告（平成27年7月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

情勢報告

環境制御技術の導入推進・・・JA高知はた大月支所ナス部会役員会にて・・・



7月7日にナス部会役員3名とJA担当指導員に対して環境制御技術の基礎的な研修を行いました。併せて、今後の環境制御技術導入加速化推進事業の推進方法についても検討してもらいました。

役員からは「ハウス内の環境を測定し、次年度以降に炭酸ガス発生装置を導入したい。」「7月末の総会に今日のような研修を行って欲しい。」「環境制御技術に関心のある農家を集め、定期的な勉強会をしたい。」等の意見、要望をいただきました。

今後とも農業改良普及課は関係機関と連携し、環境制御技術導入の推進を行います。

集落営農の法人化を進めよう・・・幡多地域集落営農法人連絡協議会の開催・・・



6月25日に四万十農園めぐりっこ研修センターにおいて、集落営農法人、法人志向組織や関係機関職員など40名以上が参加し、幡多地域集落営農法人連絡協議会を開催しました。

協議会は、幡多管内での集落営農法人の設立と運営支援を目的に、平成25年度から開催しており、県農業会議の田中氏より『集落営農の法人化について』、県農業公社の次田氏から『農地中間管理事業について』、農業改良普及課からは『集落営農組織の経営計画について』説明し、意見交換を行いました。

管内では、今年度中に4法人の設立が計画されており、農業改良普及課では今後も幅広い支援を行っていきます。

新規就農者を確保しよう・・・幡多地域新規就農者支援ネットワーク協議会を開催・・・



6月18日に四万十農園めぐりっこ研修センターにおいて、幡多地域新規就農者支援ネットワーク協議会を開催しました。

協議会には、管内市町村、JA、オブザーバーとして県農地担い手対策課、農業担い手育成センター等の約40名が出席しました。『産地提案型』の今後の取り組みや、『青年就農給付金』、『農地中間管理事業』等について情報提供受け、地域の状況も説明しながら、活発な意見交換を行いました。

農業改良普及課では、市町村やJAと協力して、幡多地域に新規就農者を呼び込む取組を進めていきます。

集落営農で地域農業を守ろう・・・集落営農組織先進地視察研修を開催・・・



土佐清水市下益野集落では、集落営農組織の設立に向けて設立準備委員会を設置し、設立に向けて検討を行っています。その一環として7月14日に、管内で先進的な集落営農の取り組みを行っている『(農)ふぁー夢宗呂川』、『(農)ファームなかつの』への視察研修を実施しました。

参加した委員は、設立時の課題をどう克服したかや、今後の課題について質問し、組織設立に向けて具体的なイメージを掴んだようでした。

農業改良普及課では、集落営農組織設立に向けて経営計画や規約の作成等の支援を行います。

イチゴの有利販売に向けて・・・JA高知はた中村支所イチゴ生産部・・・



7月1日、JA高知はた中村支所イチゴ生産部は総会及び反省会を行い、1年間の取り組みや販売結果等を幅広く検討しました。

農業改良普及課から育苗期の炭そ病対策を再確認するよう情報提供したところ、生産者は、薬剤散布や育苗環境などについて活発に意見交換を行いました。

また、本生産部では、炭そ病抵抗性品種など7品種を生産しています。今後は、円滑な販売につなげるよう品種の集約を進めることにしました。

農業改良普及課は、品種特性や地域で検討された栽培技術を整理し、地域にあった品種選定を促していきます。

ミシマサイコの増収に向けて・・・現地検討会の開催・・・



6月29日に宿毛市、大月町の5ヶ所の栽培ほ場で現地検討会を開催しました。

今年は播種後に適度な降雨があったため発芽は順調でしたが、連作により生育が不揃いになっているほ場も見られています。当日は生産者12名の参加があり、それぞれのほ場において追肥や摘心方法、病虫害防除などについて意見交換を行うことができました。

農業改良普及課ではミシマサイコの産地拡大に取り組んでいるところであり、既存農家の増収対策と併せて新規耕作者の掘り起こしを進めていきます。

品質向上に努めよう・・・園芸連出荷ターミナルと残留農薬検査センターの視察・・・



6月26日にJAはた園芸研究会ミョウガ部会7名で、園芸連出荷ターミナルと残留農薬検査センターを視察しました。高品質出荷を目指し、今回は調製作業を行っている農家の奥さん達が視察を行いました。

「他の産地の出荷物が見られて勉強になった」「良品出荷に努めよう」等、参加者から意見が聞かれました。

農業改良普及課では、収量・品質の向上に向けて栽培講習会、目慣らし会を開催するなど今後も支援を行います。

新技術の勉強と研修生の確保・・・大方園芸部による担い手支援センターの視察・・・



7月14日に大方園芸部（農家、黒潮町職員、JA職員）15名で、農業担い手育成センターを視察しました。

農業担い手育成センターで取り組んでいる試験、研修施設、研修内容について説明を受けました。卒業して大方に就農した方の近況報告、新たな研修生確保について意見交換を行いました。

農業改良普及課では、炭酸ガス施用の成果の普及に努めると共に、市町村やJAと協力して、黒潮町に新規就農者を呼び込む取組を進めていきます。

天敵を有効に活用しよう・・・土佐清水三崎支所キュウリ部会天敵温存組合・・・



JA高知はた三崎支所キュウリ部会の部員が、天敵温存組合を立ち上げ、7月13日には部員10名が集まり、温存ハウスの整備作業を行いました。8月にはインセクタリープランツを定植して、その後タバコカスミカメを温存していく予定です。

農業改良普及課では、今後温存ハウス運営への支援、および天敵が本圃で定着するように、指導を行い、天敵の普及を図っていきます。